

*** 今日の健康（6月）***

< 麻疹の流行 2026年21週時点 >

2026年5月麻疹の流行状況は、例年と比較して非常に高い水準で推移しており、警戒が必要な状況です。

1. 流行の現状

東京都の麻疹患者報告数が2026年5月時点、第1週から第21週までの累計報告数で253例に達し、前年（2025年同期間の累計34例）を上回るペースで推移しています。



国内での感染が拡大しており、当初は海外からの輸入症例が中心でしたが、現在は国内での感染例も増えています。

感染の主な対象として、特定の年齢層に偏らず、若年層から成人まで幅広く感染が確認されています。特に免疫が不十分な層（ワクチン未接種や1回のみ接種）での発症が目立ちますが、2回接種済みであっても感染する事例（軽症の「修飾麻疹」など）も報告されています。

2. なぜ今、増えているのか

世界的に麻疹の流行が拡大しており、入国制限の緩和とともに海外からのウイルス流入が増加しています。

免疫の空白も原因と考えられ、コロナ禍におけるワクチン接種の控えや、過去の制度上の理由から接種回数が不十分な世代が存在しており、集団免疫が低下していることから国内感染の拡大に影響しています。

麻疹は極めて高い感染力と空気感染をするため、予防接種を受けていない場合、免疫がないとほぼ100%感染すると言われています。

3. 今後の注意点と対策

ワクチン接種歴の確認が必要です。麻疹を予防する最も有効な手段は、「麻しん風しん混合（MR）ワクチン」の2回接種です。ご自身の母子健康手帳などで予防接種履歴を確認し、2回接種していない場合や不明な場合は、医療機関への相談を検討してください。

疑わしい症状（発熱、発疹、咳、鼻水など）が現れた場合は、いきなり医療機関を受診せず、必ず事前に電話で「麻疹の疑いがあること」を伝え、受診方法の指示を仰いでください。（医療機関内での感染拡大を防ぐためです。）